“自分でできるように手伝ってください”

2025.07.01

新年度が始まり、３ヶ月が経ちました。毎日、自分でできることが増えていく子どもたちを見て、感動する日々を過ごしています。１日の中で、何回も繰り返し行なう【着脱】での出来事です。ほんの少しですが、紹介させてください。

〈２歳３ヶ月の男の子のエピソード〉

濡れたＴシャツと肌着、ズボンとパンツ、全て自分で脱ぐことができます。ただ、着るときは何も見ず、感覚で持ったり、とりあえず、手や足を入れては全力で引っ張るので、なかなか一人ですることができず、少しでもできないと感じると「できん」と言ったり、「んん～」と声を出し、泣きそうになりながら援助を求めていました。なので、まずは着る前に衣服をよく見ることを伝え、Ｔシャツや肌着は、頭を入れて次に袖に腕を通すことを声掛けしながら一緒にやっていきました。すると、ある日のこと…脱いで着るまで、保育士の援助を必要とせず、自分一人でることができました。

〈２歳８ヵ月の女の子のエピソード〉

Ｔシャツを着るとき、イラストが前になるように着たいので、保育士に「どっち？」や「こう？」と聞きながら着替えていました。ある日のこと、いつも通りに聞いてきたので、「どっちだろうね。着てみたら？」と返事をすると、自分で考えながら着ていました。すると、イラストが背中側になり、援助を求めてきたので、脱いで再度、チャレンジするように伝えると、さっきとは反対にしてきていました。すると、イラストが前になっていることを確認して手を洗いに行きました。

このさまざまな様子を見て・・・

子どもたちはいつも“自分でできるように手伝ってください”と大人に伝えています。子どもだから…まだできないから…ではなく、やり方を知らないだけなのです。きっと…これからも色々なものに出会っていきます。そこで、子どもが自分でできるように手伝ってほしいのです。初めてのものは名称を伝え、使い方を見せましょう。そして、どの大きさ、どんな方法がやりやすいのかを考えてほしいのです。ほんの少しの工夫で子どもは自分でできるようになります。そして、“できた！”が増えていくと自信をもてるようになります。これからも保護者の方と一緒に子どもたちの“できた！”を増やしたり、見守っていけたらいいな・・・と思います。